

研修報告書 No. 8

所 属： 大阪医科薬科大学病院

研修先： 土佐市民病院

高知県の土佐市民病院で1か月間地域医療研修を行いましたので報告します。

まず初めに、慣れない地域での研修を支えて下さった皆様に心より感謝いたします。

研修では、私が普段勤務している都市部の大学病院とは異なった役割の医療機関での経験ができたことが最も勉強になりました。例えば、血液検査でも院外での検査となり時間がかかる項目も違っており、重症となった場合に治療する選択肢が限られる疾患もありました。自施設で診断をつけることを優先するのではなく、確定診断がついていない状態でも、早期に治療介入するために、早急な転院搬送が必要になったこともありました。そのためには、診断、治療の知識だけではなく病院の機能や医療体制を包括的に理解して、患者さんに対して最良と思われる決断をすることが求められていました。

転院搬送の救急車に同乗したこともありましたが、高知県は東西に広い県ではありますが、人口、医療機関が中央部に集中しており、3次救急の3施設も高知市内に集中しています。土佐市から高知市内への搬送でも、高速道路で30分程度はかかる距離であり、1分1秒を争う状態に至る前に搬送するという判断の必要性を感じました。高知県の西部や東部では、さらに救急車で搬送時間が長くなると考えると、厳しい環境での医療を提供していることが実感できました。普段私が勤務している大学病院は紹介状を受けることが主の医療機関であり、逆紹介をすることはあっても、診断、治療目的で患者さんを紹介することはほとんどありませんでした。紹介をする側の立場での診療を学ぶことで、紹介をする側の環境を慮ることができるようになったと思います。

医師として必要な、基礎的な力をつけることができたことも土佐市民病院で研修して良かった点です。内科外来では、初診の患者さんを多く担当することができました。紹介状が必要なくても受診できる病院のため、生活により身近な環境での診療を経験することができたことが大きかったです。感冒症状で来院される患者さんから重症で緊急での搬送が必要な患者さんまで、実際の地域で生活されている中で、ありのままの医療の需要を知ることができると同時に、common diseaseに対する検査、診断、治療の方針を主体的に考える力が身につきました。外科外来では、多くの創処置の対応を上級医の先生と一緒に担当しました。多くは、日常生活でよく起こる、外傷に対する対応ですが、実際に普段の診療で経験することが少ない領域でしたので、とても勉強になりました。病棟管理においても、担当患者さんを主体的に診療することができました。高齢の患者さんも多く、退院後の生活を意識した診療が求められることが印象的でした。

土佐市民病院での生活は、スーパーも近隣にあるため、車を持っていなくても、とても生

活しやすい環境でした。また、高知市にもバス1本で出ることができるので、図書館での勉強や、高知県の観光など有意義な高知生活を送ることができました。研修の直前に足を骨折してしまい、大部分が松葉杖歩行での生活でしたが、病院のスタッフの皆さんが大変気にかけてくださり、不自由も少なく生活できました。足が不自由な生活をしてみると、公共交通機関が少ない地域、時間での移動の難しさも身をもって実感することができ、高齢の方の地方でのサポートを受けない生活の大変さ、生活圏の狭さを考えることができたことも良い勉強になりました。自分が思っていた以上に、患者さんの身体的な不自由による医療、健康への影響があることを痛感しました。

最後に、改めて地域医療研修に関わって下さった皆様に深く御礼を申し上げます。今回の経験を大切にして、今後の医師としての生活においても、患者さんの生活背景や、自分の勤務する医療機関としての役割をしっかりと認識して、適切な医療を提供することができるように精進して参ります。